

●常盤のまちづくり

## 先人の知恵を次代へ

### 炭焼き窯を製作

常盤の里づくり協議会では、さまざまなまちづくり活動などを通して常盤地域の良さを地域内外にPRしています。



常盤地域では、失われつつあるかつての生活文化を見直し、先人の知恵や自然の豊かさを次世代へ伝えようと、現在、住民有志が毘沙門憩いの森に炭焼き窯を製作しています。

炭焼き窯製作には、常盤の里づくり協議会や地元自治会のほか、地域の高齢者などさまざまな立場の人が参加しており、年齢の枠を超えて作業が進められています。

地域では炭焼き窯を作ることで、地域住民のレクリエーションの場としての活用や、地域外



から来たお客さんに対して常盤を深く印象付けるきっかけの一つになればと期待しています。

## まちかど

### ウォッチング



新そばを味わえるそば堂、そば打ち体験や子どもたちによるそば音頭など、鶴形地区特産のそばを生かした祭りに、多くの人が訪れました。

あなたの『そば』で祭りだー！  
ワッショイ！ in 鶴形パート2

## いつも元気



おもしろい常盤の里々秋丸かじり

## のーろ道遙

### 歴史と民俗のあいだ

82

#### 農林の記憶(二) 「吹越・西村長兵衛」

吹越は米代川が蛇行する舌状部にあり、絶えず洪水の被害に遭っています。しかし逆に考えると、米代川が運んでくる肥料分の豊かな土地であるともいえます。この碑文によると、嘉永元年(一八四八)生まれの長兵衛が、開墾途中で志を得ないまま没した先代の長兵衛のあとを継いで、開拓を企てたようです。そのころ吹越は十四戸が住み、耕地はわずか二町歩であったそうです。長兵衛は十七歳のとき、市五郎・吉左衛門・松太郎の同志を誘い、二十五年の歳月を費やして、二十町歩余の開田に成功しました。長兵衛は大正十年に七十四歳で没しますが、そのころは戸数も二十三に増えました。この記念碑は長兵衛の没後、大正十三年に坂本定徳の撰文、小助川学麟の書で建てられました。坂本定徳は日吉神社の宮司ですが、このころは能代高女(現北高)の校長を勤めていました。小助川学麟は明治大正期の西福寺住職で、歌道にも通じていました。

この記念碑の隣にはもう一基の開田記念碑があります。昭和四十三年に市有地十五畝の払い下げを受けて開田を試み、昭和五十一年に三十八畝の開田に成功した記念碑です。自然に挑む吹越の人々の心意気を感じます。

(古内龍夫)

